

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 9 月 9 日

【評価実施概要】

事業所番号	4091600207		
法人名	社会福祉法人 ひじり会		
事業所名	グループホーム さくら館		
所在地	久留米市田主丸町豊城 1 7 5 1 〒839-1234 (電話) 0943-72-2596		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年9月3日	評価確定日	平成21年10月5日

【情報提供票より】(平成 21 年 8 月 3 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15 人	非常勤 2 人 常勤換算 15.7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての～	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(100,000 円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,380 円程度	

(4) 利用者の概要(8 月 3 日現在)

登録人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護 1	3 名	要介護 2	6 名		
要介護 3	8 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	名				
要支援 1	名				
要支援 2	名				
年齢	平均 84 歳	最低	72 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田主丸中央病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路から一本入った、自然が残る環境の中にあり、ホーム内は広さに余裕があり、和風のおもむきを感じさせる作りとなっている。サンシェードを利用したりリビングは、やわらかな明るさにつつまれ、心和む快適な空間であり、自分の家と変わらず一人ひとりが自由に生活している。館長、管理者、職員が一体となり、利用者が自分のペースでゆったりと生活できるように支援している。自発的に家事の手伝いをする利用者も見られるなど、生きがいを見出している。職員が安心して働き続けることができる環境作りとして、職員の妊娠、出産、職場復帰へ向けた支援体制は、現場で働く職員の精神面での充実を図り、利用者主体の利用者の心に寄り添うケアの実践へと繋がっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果については、運営推進会議や勉強会時に報告を行い、地域の方々と交えての防火訓練へ取り組むなど、質の向上に向けた取組みがある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の受審にあたり、管理者と館長が記入した自己評価内容を職員が確認するなど、職員がかかわっての取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族代表、民生委員、自治会長、行政担当職員、地域包括支援センター職員等が集っての2ヶ月毎の開催がある。ホーム状況や外部評価結果等についての報告のほか、畑に植える作物や廃油でのエコ石けん造りのアドバイスを受けるなど、情報交換・意見交換の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族面会時の声かけ及び金銭出納に関する説明と確認、その都度の電話連絡、担当職員からのコメントが記された“たより”の送付、家族交流会などを通じて、家族の意見や要望等の表出に努めている。出された意見等は、カンファレンスで協議し、介護計画書に反映させるなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会への参加、JA婦人部の方々と連携、地域ホールで行われる地域行事の見学、ホーム行事への地域の方々の多数の参加、中学生と一緒に畑の収穫や調理等、日常のかかわりを通じた地域との交流が行われている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	法人理念とは別に、全職員と協議しながらグ ループホーム独自の理念を作成している。利用 者が持つ能力の維持に努めながら、利用者の意 思の尊重と個別支援を通じて、地域の中で暮ら していくための支援が行われている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	事務所内に理念が掲示されており、違和感無 く、自然と目に入る工夫がある。理念に基づ いた支援が行われているかを振り返りながら、介 護計画書の作成が行われている。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	地域自治会への参加、J A 婦人部の方々との 連携、地域ホールで行われる地域行事の見学、 ホーム行事への地域の方々の多数の参加等、日 常のかかわりを通じた、地域との交流が行われ ている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果については、運営推進会議や 勉強会時に報告を行い、地域の方々を交えての 防火訓練への取り組みがある。今回の受審にあ たり、管理者と館長が記入した自己評価内容を職 員が確認するなど、職員がかかわっての取組み がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者が集っての2ヶ月毎の開催がある。ホーム状況や外部評価結果等についての報告のほか、畑に植える作物や廃油でのエコ石けん造りのアドバイスを受けるなど、情報交換・意見交換の場となっている。		全家族への運営推進会議議事録の送付を通じて、家族に対して、更なる情報提供を図られ、様々な制度等についての理解の浸透が図られるような取組みを期待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に、行政担当職員及び地域包括支援センター職員の参加が見られる。行政主催の地域密着型サービス交流会への参加、行政担当者の頻繁なホーム見学など、運営推進会議以外にも行政との連携が図られている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員に対しては、年間の研修計画に織り込んで定期的な勉強会に取り組んでいる。家族に対しては、運営推進会議時に定期的に説明を行うなど、制度の理解と普及への取組みがある。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の声かけ及び金銭出納に関する説明と確認、その都度の電話連絡、担当職員からのコメントが記された“たより”の送付などを通じて、様々な報告が行われている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時の声かけやその都度の電話連絡、担当職員からのコメントが記された“たより”の送付、家族交流会などを通じて、家族の意見や要望等の表出に努めている。出された意見等は、カンファレンスで協議し、介護計画書に反映させるなどの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は全員、正規職員であり、余裕を持たせた職員体制と出産後でも安心して働ける環境が整えられている。まずはボランティアとして入り、3ヶ月目から夜勤に入るなど、新入職員の意思の確認と利用者の精神面を配慮した取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用に関しては、何らの制限も行われていない。未経験者に対しては、面接時に介護現場における精神面での大変さを伝え、まずはボランティアとして入ってもらい、本人の意思の確認を行っている。職員は全員、正規職員である。職場でトレーニングを積んで資格取得を目指してもらうなどの支援体制がある。</p>		
12	20 追加	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権についての講演会への参加や、図書館からビデオテープを借りてホーム内で勉強会を行うなどの取り組みがある。</p>		
13 (10)	21 (19)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人本部での毎月の研修会に参加したり、ホーム内での勉強会を開催している。また、行政主催の勉強会やグループホーム部会での勉強会への参加等、職員のスキルアップへの取り組みがある。</p>		
14 (11)	22 (20)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>行政主催の勉強会やグループホーム部会での勉強会への参加などを通じて、他の事業所との交流が行われている。また、管理者は、行政担当者と一緒に他施設の見学に赴くなど、質の向上への取り組みがある。</p>		<p>計画されている、他事業所との職員レベルでの相互訪問や交流を实践され、質の向上に向けての情報交換、及び、職員個々の気づきや更なるモチベーションをあげる機会となるような取り組みを期待します。</p>


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居の利用を通じて、安心して入居後の生活に馴染めるような取り組みがある。また、系列の認知症デイサービスから入居に至るなど、スムーズな利用へと繋がっている。入居後も家族の頻繁な面会や外出等を働きかけるなど、家族との関係性を重視した取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	編み物や料理のコツを教えてもらったり、利用者の知恵・知識等を学ぼうとする姿勢が伺える。利用者から夜勤帯の職員へ、ねぎらいの言葉かけが自然と行われるなど、支えあう関係が構築されている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりや家族の面会時、家族交流会などを通じて、利用者・家族の思い等を把握している。把握した情報は、センター方式を利用して共有化が行われている。利用者の希望の実現を図る企画である「願い事叶え」などの取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	担当職員が、利用者・家族の希望や思い等をもとに介護計画の原案を作成し、カンファレンスにて全職員の意見を聞き、計画作成担当者による確認が行われている。介護計画書の内容は、利用者の希望や出来る事を取り入れた内容である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	担当職員による毎月の評価と3ヵ月毎のモニ タリングが行われている。また、毎月のユニッ ト合同でのカンファレンス時に、全利用者につ いて職員の気づきを出し合い、情報の共有が図 られている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	介護予防教室での講師依頼の受託、病院受診 への支援、入院中のお見舞いや洗濯物の支援、 中学生の体験学習の受入れなど、柔軟な支援が 行われている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	入居時に緊急時の協力病院の説明を行い、利 用者・家族の希望に沿って支援しており、今ま でのかかりつけ医への受診も可能である。受診 の際は、病院で家族と待ち合わせるなど、全 面的に職員が支援している。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、事前計画書として、本人・家族の 終末期に関する意思確認が行われている。その 時々状況により、関係者による検討を行い、 本人・家族の希望に沿った支援への体制があ る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する態度等について、計画立てた 勉強会や定期的な指導等を通じて対応の徹底が 図られており、利用者一人ひとりを尊重した対 応が見受けられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望やペースを尊重した 支援が行われている。日々の過ごし方、食事へ の声かけや対応など、様々な場面においてその 時々の利用者のペースを尊重した支援が見受け られた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	メニューは利用者の希望をもとに、ホームで 調理している。利用者の出来る事を把握して、 調理の手伝い、配膳、下膳などが協力して行わ れていた。食材に、いただき物や畑で収穫した 作物を使用し、見た目や盛りつけ等、「食」へ のこだわりや想いが伺えた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	基本は一日おきの入浴であるが、準備は毎日 しており、希望によって毎日の入浴が可能であ る。現在は夕食前後の入浴希望者はいないが、 希望があれば対応していく意向である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	利用者の希望や出来る事を把握して、宝くじ の購入、掃除、洗濯物たたみ、買物、調理、配 膳、下膳、花の手入れなど、役割として介護計 画書に取り入れての支援が行われている。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	玄関先でのティータイム、日々の買物、図書 館の利用など、日常の中で戸外に出ることを意 識した取組みがある。また、利用者の希望に応 じて、温泉や外食、自宅の仏壇へのお参り、馴 染みの場所へのドライブなどの個別支援への取 組みが行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されている。きめ細かな利用 者の観察により外出傾向の把握を行い、一緒に 外出するなど、利用者の自由と安全のバランス に配慮した支援が行われている。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	運営推進会議時に、地域との関係充実のため の声かけを行うなどの取組みがある。消防訓練 時は、消防署、地域消防団、地域の方の参加が みられるなど、地域との連携・協力体制が図ら れている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	メニューは利用者の希望をもとに、旬の食材 を使用し、見た目や色合いも意識しながら作成 している。利用者毎の食事摂取量を毎回チェッ クし、状況に合わせて刻んだり、食が進まない 場合はアイスクリームを提供するなどの対応が 行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから食堂、居室にかけて広さに余裕 を持たせ、和風のおもむきを感じさせる作りと なっている。サンシェードを利用したリビング は、やわらかな明るさにつつまれ、ソファで くつろぐ利用者の様子からも、居心地のよい空 間であることが伺える。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、家具や机、仏壇、テレビ、 写真、畳パネルなどの品物が持ち込まれてお り、利用者の人柄が伺える居室となっていた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号